

伊丹社保協 第3回定期総会のご案内

参加無料

国保・介護・後期医療の動向と
わたしたちのたたかい

ー伊丹市の現状をふまえて



講師 大阪社会保障推進協議会・事務局長

寺内 順子 氏

日時 6月4日(土) 14:00 ~ 17:00

(学習講演は~ 15:00。その後総会議事)

会場 伊丹市立スワンホール3F 第6・7会議室

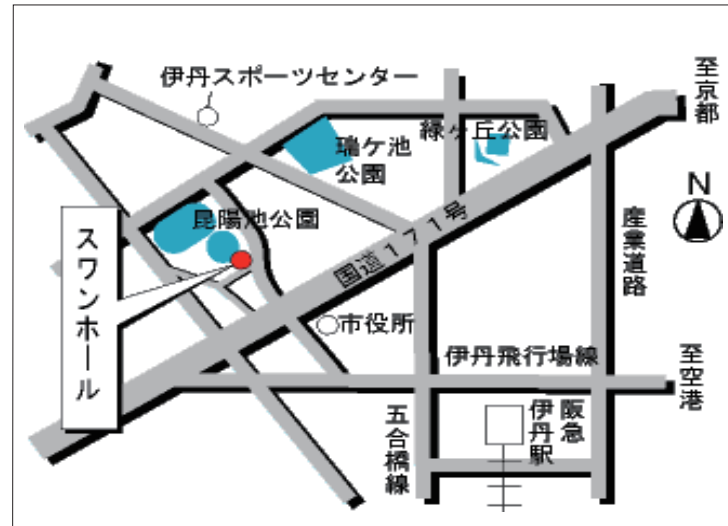
(伊丹市昆陽池2丁目1番地 Tel 072-779-5661 下地図参照)

国民皆保険 50 周年の今年は、東日本大震災という未曾有の大災害によって、社会保障の意義が今までになく問われる年となりました。しかし、菅内閣は復興税の名の下に「税と社会保障の一体改革」と称した消費税増税を進めようとしています。

相次ぐ社会保障改悪によって市町村国保財政は逼迫しています。この伊丹市でも加入 29,740 世帯のうち資格証発行数が 255 件 (2010.7 自治体アンケートより) と深刻な実態が続いています。

また、後期高齢者医療制度の廃止に伴って国保の広域化の動きも活発になっています。伊丹市民にとって望ましい国保・社会保障のあり方とはどういったもののでしょうか。

「安心して暮らしたい」という私たちの願いを実現させるためにも、この現状をどう切り開くのか、みんなで学び、ともに考えましょう。ふるってご参加ください。



寺内 順子(てらうち じゅんこ) 氏 ご紹介

大阪社会保障推進協議会 (大阪社保協) 事務局長

『国保広域化でいのちは守れない』(編著、かもがわ出版社)ほか
ブログ 事務局長の着物な日々 <http://osakasyaho.blog81.fc2.com/>

お問い合わせは、TEL : 072-785-1833 伊丹生活と健康を守る会内 社会保障をよくする伊丹の会まで

兵庫県保険医協会

北阪神支部
ニュース

2011 年 5 月 25 日号 No.212

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

第79回評議員会

澤村・谷口両評議員が発言

協会は5月15日、協会会議室で評議員会を開催。全体で462人が参加。2010年度会務報告、2011年度活動方針案、2011年度予算案などが承認された。

全体討論での評議員の澤村新先生(宝塚市)、谷口紀善先生(伊丹市)の発言要旨を紹介する。

①北阪神支部の活動紹介(澤村 新先生 宝塚市)

北阪神支部は、今年1月に恒例の新春政策研究会を開催した。副理事長・政策部長の加藤擁一先生に「高齢者医療新制度の行方」をテーマに講演いただき10人が参加。国民健康保険の広域化とともに目論まれる制度の再編によっても、「医療費の抑制」という後期医療の根本は変わらないことをおさえた。

スタッフ対策では、4月に接遇研修会を開催。人材育成コンサルタントの松田幸子さんに「外来での接遇の基本とクレーム対応」をテーマに講演いただき、38人が参加した。

また、地域医療部員の林宗茂副支部長が中心となり、5月に在宅医療研究会の開催を予定している。関本クリニック(灘区)の関本雅子先生が「在宅末期がん患者における緩和ケア」をテーマに講演される。

また、この度の東日本大震災に関しても取り組みを強めている。中井支部長、脇野副支部長が副会長をつとめる宝塚社保協の街頭宣伝でも、通常の後期高齢者医療制度



「支部で震災対策企画も」と澤村先生

(2面につづく)

(1 面からつづく)

の中止・撤回を求める宣伝を振り替え、急遽被災者支援募金活動を行い、多数の市民の方の協力をいただいた。また、協会理事の郷地秀夫先生をお招きした「被爆者医療からみた福島第一原発問題 (仮称)」の研究会も近々に開催予定だ。

②東日本大震災を口実にした社会保障改悪阻止を

(谷口 紀善先生 伊丹市)



「医療者の声を国政に届けよう」と谷口先生

震災を口実とした悪政の強行を阻止しなければならない。菅内閣は“震災復興のため”の名目で消費税を上げ、「税と社会保障の一体改革」の断行することに執念を燃やしている。また環太平洋連携協定 (T P P) の加盟によって「平成の開国」を果たし、農産物をはじめとする関税障壁の撤廃、労働力や金融などの各種サービス輸入を自由化する目論見も決してあきらめてはいない。国民皆保険制度が危機に瀕している。

このような政策は、国民生活や、我々医療人が願う社会保障の拡充と真っ向から対立するもので、ましてや被災者にとって「百害あって一利なし」と言える。国会要請などで我々医療者や国民の声を国政に届けよう。

兵庫県保険医協会 第 43 回総会のご案内

6 月 19 日 (日) 13 時 30 分 ~ / チサンホテル神戸 2 階 あじさい

■総会議事 13 時 30 分 ~

2010 年度会務報告と 2011 年度活動方針案、2011 年度予算案、役員承認の件ほか

■記念講演 15 時 30 分 ~

「iPS 細胞・神経幹細胞で神経系を再生する」

慶應義塾大学医学部 咸臨丸プロジェクト / 生理学教室

岡田 洋平 先生

■懇親会 17 時 30 分 ~ (3 階 六甲) 会費無料

職員接遇研修会・感想文

思いやりの表現が大切

北阪神支部は 4 月 16 日、いたみホールで職員接遇研修会「接遇の基本とクレーム対応」を開催 (前号既報)。人材育成コンサルタントの松田幸子氏が講演し、スタッフら 38 人が参加した。参加者の感想文を紹介する。



「気遣う気持ちを表現しよう」と松田氏

医療の現場で「接遇」が問われるようになったのは、いつ頃からだろうか。

医師や看護師は患者様に対して威圧的であってはならない。だが、医療現場の接遇が、他のサービス業と同様でよいのだろうか、という疑問は感じていた。

研修を受け、まず、なるほどと納得したのは、病院という意味のホスピタルと暖かいもてなしを意味するホスピタリティの語源が同じであり、弱った患者様への思いやりこそが、医療現場での接遇であるということだった。それなら誰でもある程度できているのではないかと思ったが、実際は自分で思っているほどできていないものだということも、今回わかった。

特に「笑顔」は常々心がけていたが、講師の方は「笑顔でもなく、怒った顔でもない普通の顔に気をつけよう」と言われた。確かに「普通の顔」は油断していたり、疲れていると不機嫌な顔になってしまう。患者様に不快な思いをさせてしまうかもしれない。口角を少し上げ、ソフトな表情を心がけるよう、早速やってみようと思った。

看護師は誰でも患者様への思いやりの心は持っているはずである。しかし、それが患者様に伝わらなければ、安心感も満足感も持ていただけない。「表現」することが重要なのだということも、今回学んだ点である。

次に「クレーム対応」についても研修を受けたが、ここでも「聴いていますよ」の表現が重要であるという。クレームを受けるのは嫌なことだが、そんな場面に出会ってしまったら、今回の研修で学んだことを少しでも実践できればと思う。

講師の方は最初にこう言われた。「頭で分かっている、実行できているとは限らない」と。今回の研修は、自分の接遇態度を振り返るよい機会であった。

【常岡病院 准看護師 沖田 薫】